選手強化を妨げている要因分析（Ⅱ）

―― TSMI 尺度にみられる特性――

山　根　成　之

（平成６年６月16日受理）

Ⅰ　緒　　言

第40回国民体育大会（以下国民体育大会を「国体」という）以降，鳥取県のスポーツ界の成績は低迷を続けている。平成元年度は国体の成績は第43位という不振であったため，鳥取県体育協会は①国体選手強化対策事業　②ジュニア競技力向上対策事業を打ち出して失地挽回を計ってきた。

しかし，これらの対策にもかかわらず効果はみられず，逆に平成５年度の国体の成績は最下位に転落するという不本意な成績に終わった。

平成３年度の時点で，本県の選手強化が効を奏していないのは何故なのか，どこに問題点が潜んでいるのかについて，日頃選手たちを指導しているコーチを対象に選手強化を妨げている要因についての調査を行なった。(1)

その結果，コーチ達は自分が指導している選手達が次のような要因を持つために，強化の効果が上がらないとしている。

それらの要因とは，選手達に根性がないとか，やる気がない，勝つのだという気迫に乏しいといった「競技意欲の欠如」の因子。体格が劣っている，基礎運動技能が劣っている，素質のあるプレーヤーが少ないなどの「体格・基礎体力の欠如」の因子。進学とスポーツの問題，親の理解がないなど「スポーツと勉学」の因子。教えたことをなかなか覚えない，依存的であるといった「自主性欠如」の因子がそれである。

これらの要因のうち，「体格・基礎体力の欠如」は選手個人に内在する問題であり，トレーニングにより多少は改善さる余地はあるものと考えられるものの，多くは固定的要因と理解しなければならない。

「スポーツと勉学」は特に高校生の進学と関係しており，選手達の進学問題が存在する限り，避けて通ることの出来ない問題であり，早急に解決出来る問題とは思われない。

「自主性の欠如」と「競技意欲欠如」は選手達のやる気の問題であり，指導の仕方如何によって直ちにでも改善可能であり効果が期待出来る事柄である。

今回は，選手達のやる気（競技意欲）の問題を取り上げ，コーチ達が感じているように本当に選手達の競技意欲が低く，自主性に乏しいのであろうか。

もし，これらの要因が欠如しているとすれば，実態はどのようになっているかという視点で国体で入賞した者及びそれに準ずる実力を有している選手と国体中国予選を突破出来ず国体出場が不可能だった者を比較する事により，指導のための基礎資料を得ることを目的とした。

また，競技意欲を高めるための心理学的方策を検討する。

Ⅱ　研究方法

1．調査対象

(1)　High レベルグループ（以下 High グループという）

平成５年度の国体出場選手のうち，国体での入賞者及びそれに近い成績を収めた選手。

対象者（男子）63名中39名回答。回収率60.9％　（女子）22名中19名回答。回収率80.4％

(2)　Average レベルグループ（以下 Average グループという）

平成５年度国体中国予選を突破することが出来ず，国体出場が出来なかった選手。

対象者（男子）42名中22名回答。回収率50.4％　（女子）50名中30名回答。回収率60.0％

(3)　全体の回収率　60.1％

2．調査内容

松田らによって作成された146項目からなる体協競技意欲検査（TSMI）を実施した。

3．調査時期および調査方法

平成６年２月から３月にかけて郵送法により実施した。

4．調査結果の処理

回収された調査用紙の内，回答に不備の点のあったもの12名を除き98名につき，各尺度の平均，標準偏差を求めた。

Ⅲ　結果と考察

Ⅲ－１　男子 High グループと Average グループの比較

男子の High グループと Average グループの各尺度の平均値と標準偏差を示すと，表１の通りであり，平均値をプロフィールで示すと図１である。

プロフィルでは尺度１～13は段階点１～３が非常に弱いことを意味し，４～６は普通，７～９は強いことを意味している。逆に，尺度14～17では段階点１～３は非常に望ましいことを意味し，４

表1　男子Highグループ，AverageグループのTSMI尺度の平均　※※P<0.01　※P<0.05

尺度	Highグループ		Averegeグループ		tテスト	有意差
	M	S.D	M	S.D		
1. 目標への挑戦	25.0	3.0	20.5	3.8	4.5761	※※
2. 技術向上意欲	26.2	2.7	23.5	3.5	3.0200	※※
3. 困難の克服	25.1	3.4	22.4	3.3	2.6721	※
4. 練習意欲	20.7	3.6	16.2	3.5	4.2038	※※
5. 情緒安定性	21.8	3.0	24.4	3.1	−2.8583	※
6. 精神的強靭さ	23.0	2.7	21.9	2.2	1.4370	
7. 闘志	27.5	3.7	25.9	3.2	1.5035	
8. 競技価値観	24.3	4.1	21.5	3.5	2.3825	※
9. 計画性	22.3	3.8	19.8	3.6	2.2300	※
10. 努力への因果帰属	24.8	2.8	24.1	3.6	0.7578	
11. 知的興味	25.6	3.6	20.9	5.1	3.7836	※※
12. 勝利志向性	21.3	5.0	18.8	5.0	1.6667	
13. コーチ受容	22.1	5.3	20.5	4.1	1.0781	
14. 対コーチ不適応	17.4	5.5	18.5	4.2	−0.7163	
15. 失敗不安	16.2	4.3	17.8	5.3	−1.1484	
16. 緊張性不安	15.4	3.0	16.2	3.6	−0.8321	
17. 不節制	17.6	3.4	20.2	3.7	−2.4769	※

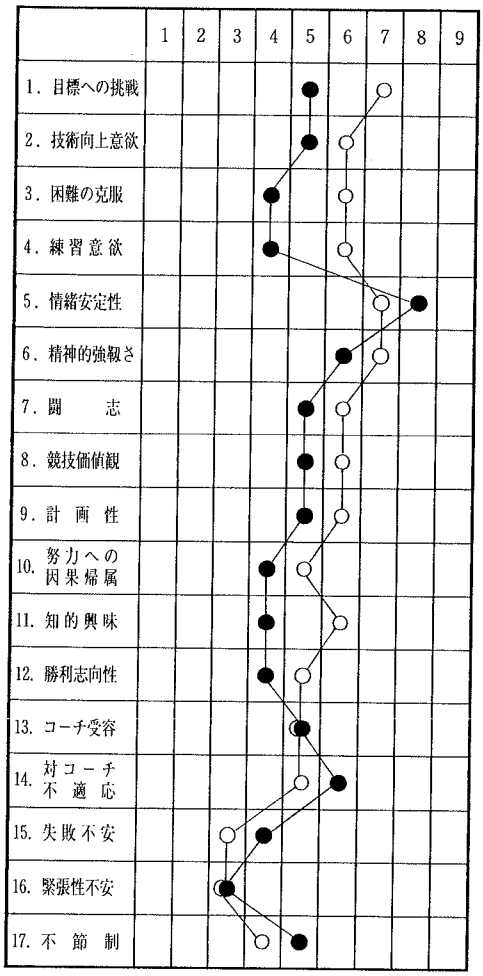

図1　男子Highグループ，Averageグループの階得点　○…Highグループ　●…Averageグループ

～6は普通，7～9は望ましくないことを意味している。

これらを見ると，「目標への挑戦」「技術向上意欲」「困難の克服」「練習意欲」「競技価値観」「計画性」「知的興味」「不節制」では明らかにHighグループが優れた値を示している。

「情緒安定性」以外の尺度でも有意差はみられないものの，High グループは全体的に望ましい傾向にある。

これらの中でも特に，「目標への挑戦」の尺度では High グループは有意に高く，自己の立てた目標へ挑戦して行く姿勢の強いことを示している。「技術向上意欲」「練習意欲」の尺度でも高い値を示し，勝利へかける意欲の高いことを示している。

Ⅲ－2　女子 High グループと Average グループの比較

女子の High グループとAverageグループの各尺度の平均値と標準偏差を示すと表2であり，平均値をプロフィールで示すと図2である。

「目標への挑戦」「技術向上意欲」「練習意欲」「計画性」「努力への因果帰属」「知的興味」「不節制」の尺度で有意差（tテスト）がみられ，尺度では多少異なるもののほぼ男子と同様の傾向を示し，High グループは Average グループより優れている。

表2　女子Highグループ，AverageグループのTSMI尺度の平均　※※P<0.01　※P<0.05

尺度	Highグループ		Averegeグループ		tテスト	有意差
	M	S.D	M	S.D		
1. 目標への挑戦	24.9	3.6	20.6	4.0	3.4336	※※
2. 技術向上意欲	26.1	3.2	23.4	3.7	2.3569	※
3. 困難の克服	25.5	3.8	23.2	3.5	1.9734	
4. 練習意欲	22.3	3.8	17.0	4.6	3.7665	※※
5. 情緒安定性	20.0	3.4	19.1	3.7	0.7722	
6. 精神的強靭さ	22.3	3.7	20.0	4.2	1.7598	
7. 闘志	25.4	4.4	25.2	3.9	0.1518	
8. 競技価値観	25.3	3.3	22.7	4.4	1.9764	
9. 計画性	22.1	4.6	19.2	3.5	2.2978	※
10. 努力への因果帰属	26.9	2.8	24.6	3.5	2.1654	※
11. 知的興味	24.5	4.3	21.1	4.7	2.2995	※
12. 勝利志向性	18.2	3.1	17.7	4.0	0.4150	
13. コーチ受容	24.8	4.6	22.2	4.6	1.7472	
14. 対コーチ不適応	15.5	4.6	17.0	5.7	−0.86533	
15. 失敗不安	19.6	4.3	18.6	5.7	0.5860	
16. 緊張性不安	18.5	4.0	18.7	4.3	−0.1471	
17. 不節制	15.8	3.9	19.7	2.8	−3.7578	※※

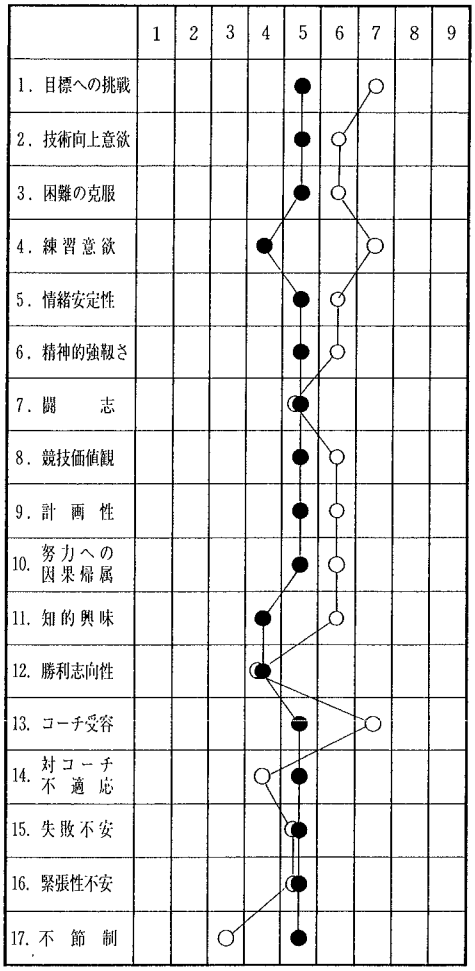

図2　女子Highグループ，Averageグループの階得点　○…Highグループ　●…Averageグループ

特に，「目標への挑戦」「練習意欲」「コーチ受容」の尺度では高い値であり，自己の立てた目標を達成すべくコーチを信頼し受容し，ひたすら練習に励む傾向が強いことを示している。

Ⅲ－3　Average グループの男女差

男女差を検討するため，全ての尺度につきｔ検定を行なったが，いずれの尺度にも有意差をみることは出来なかった。つまり男女差はみられず同一集団である。

Ⅲ－4　High グループの男女差

「失敗不安」「緊張性不安」において女子は男子より高い値を示し（ｔテスト），女子は男子より不安傾向が強い。それ以外に男女差はみられない。

Ⅲ－5　High グループ全体と Average グループ全体の比較

High グループ，Average グループとも男女一緒として，High グループ，Average グループの各尺度の平均，標準偏差を表３に，プロフィールを図３に示す。

「目標への挑戦」「技術向上意欲」「困難の克服」「練習意欲」「精神的強靭さ」「競技価値観」「計画性」「知的興味」「勝利志向性」「不節制」の項目で有意差（ｔテスト）がみられ，High グループは Average グループよりこれらの尺度において明らかに優れている。

「闘志」「努力への帰属」「コーチ受容」「緊張性不安」の尺度においては有意差は認められない

表3　女子Highグループ全体，Averageグループ全体のTSMI尺度の平均　※※P<0.01　※P<0.05

尺度	Highグループ		Averegeグループ		tテスト	有意差
	M	S.D	M	S.D		
1. 目標への挑戦	25.0	3.2	20.6	3.9	6.0618	※※
2. 技術向上意欲	26.2	2.9	23.4	3.6	4.2112	※※
3. 困難の克服	25.2	3.5	22.9	3.5	3.2166	※※
4. 練習意欲	21.1	3.7	16.7	4.2	5.4557	※※
5. 情緒安定性	21.1	3.3	19.9	3.7	1.6794	
6. 精神的強靭さ	22.7	3.1	20.7	3.7	2.8785	※※
7. 闘志	26.9	4.1	25.4	3.7	1.8763	
8. 競技価値観	24.6	3.9	22.3	4.1	2.8166	※※
9. 計画性	22.3	4.1	19.4	3.5	3.7121	※※
10. 努力への因果帰属	25.4	2.9	24.4	3.6	1.5040	
11. 知的興味	25.3	3.8	21.0	4.9	4.8250	※※
12. 勝利志向性	20.4	4.7	18.1	4.4	2.4697	※
13. コーチ受容	22.9	5.2	21.3	4.5	1.6059	
14. 対コーチ不適応	16.8	5.3	17.6	5.3	−0.7389	
15. 失敗不安	17.2	4.5	18.3	5.6	−1.0646	
16. 緊張性不安	16.3	3.6	17.8	4.2	−1.8830	
17. 不節制	17.1	3.6	19.6	3.1	−3.6318	※※

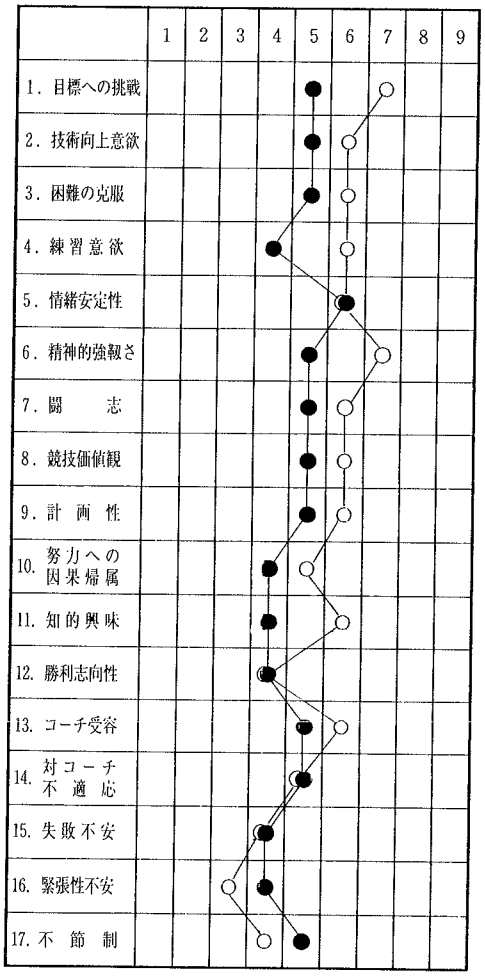

図3　Highグループ全体，Averageグループ全体のの階得点　○…Highグループ　●…Arerag［グループ

がHighグループが優れた傾向を示している。

これらの差が国体で好成績を上げ得るか，国体への出場が果せないかの違いとなって現われるものと思われる。

『競技意欲向上のために』

Averageグループの現状を打開し，TSMI尺度のレベルアップを計る方策として，どのようなことが考えられるだろうか。

佐々木[2]らは日常行なっている「言葉あるいは動作による模範」による指導に加え，「各選手の課題パフォーマンスのメンタル・リハーサル」さらに「VTRによる視覚的運動学習」の方法を取り入れたところTSMI尺度得点の向上をみた。

特に，「技術向上意欲」「困難の克服」「勝利志向性」「失敗不安」「冷静な判断」「精神的強靭さ」「闘志」「対コーチ不適応」「努力への因果帰属」の各尺度に有意な望ましい変化を認めた。　また，野川[3]は選手達が何に動機づけられ練習に取り組むかを調べたところ，①目標設定　②競争場面　③新奇性であった。

つまり，練習場面での創意，工夫により選手達は動機づけられ競技意欲の向上が期待し得ると考えられる。

これらのことから，練習場面での創意，工夫が選手達の競技に取り組む姿勢を強化するものとい

えよう。日頃の練習がマンネリ化してはいないか，いま一度指導者は自己の指導について振り返ってみる必要があろう。

豊田[4]はコーチ・選手を対象に望ましい指導者象に関して調査し，因子分析をしたところ次の8因子を抽出した。

①積極性を伴った処理能力　②個性的親和性　③マナー　④自立心　⑤理念・判断力　⑥緻密さ　⑦技能　⑧悲壮感などがそれである。

つまり，選手は人格的・経験的に優れた指導者を渇望しているという。選手の期待している指導者で有ることが選手の競技意欲の高まりをもたらすものである。

堀井[5]は選手達の「主体性，思考，工夫，課題意識，目的，個人尊重」というような主体性に関する競技信条が指導者のそれらと一致する時，選手達の競技意欲が高いという。

つまり，指導者が選手達の主体性を認めることと，選手達自身がその必要性を認識するといったように，コーチと選手の競技信条の一致することが競技意欲の向上ををもたらすとする。

今回の調査でも High グループ選手の中にさえ「コーチ受容」に関しての得点が低い選手，「対コーチ不適応」の高い選手が少なからずいるという事実は，指導者として反省すべき重要なポイントが潜んでいるものと思われる。

『High グループの課題』

High グループにも問題がないわけではない。「勝利志向性」をみると，段階点4とあまり高くない。勝利志向性の問題は，コーチの影響が大であるといわれる。選手・コーチ一体となった取り組みが求められる。

次に「対コーチ不適応」の問題である。「対コーチ不適応」の尺度はコーチと選手の人間関係がどの程度うまくいっているかどうかを示す尺度であるので，段階点5というのは普通ということを意味する。

選手達に受け入れられない指導者は，何を指導しても効果を上げることは期待し得ないことは言うまでもない。今後，より以上の成果を期待するとすれば，今まで以上の両者の密接な人間関係が形成されることが競技意欲向上に不可欠である。

コーチはこれらの点に思いを馳せ，選手に受け入れられるよう，又選手達に不適応を起こさせないようするために自己研鑽，自己反省をすることが大切といえる。

Ⅳ 要　約

本県の選手達の競技意欲を知るために TSMI を実施し，競技意欲向上につき検討した結果，次のようなことが明らかとなった。

(1) 男女とも Average グループは High グループに比べ，全体的に競技意欲は低い傾向にある。

(2) High グループでは女子の「失敗不安」「緊張性不安」が男子のそれに比べ高いが，他の尺度には男女差はみられない。Average グループではどの尺度にも男女差はみられない。

(3) High グループは Average グループと比較すれば全体的に望ましい姿といえるが，「勝利指向性」が予想に反し低過ぎる。

(4) Average グループも High グループも「コーチ受容」「対コーチ不適応」はいま一歩という得点であり，指導者と選手のあり方に一考を要する。

(5) 競技意欲を高めるには練習のあり方，指導者のあり方につき検討する必要があろう。

(注)

(1) 拙稿：「選手強化を妨げている要因分析」　鳥取大学教養部紀要　第25巻　1991

(2) 佐々木三男他：「練習方法の変化が競技意欲に及ぼした影響について」　スポーツ心理学研究　第15巻　第1号　P. 60　1988

(3) Haruo Nogawa：Motivational Techniques Preferred by Coach and Elite Wemen Basket-ball Players in Japan Women's Basketball League.　日本体育学会第36回大会号　P. 583　1984

(4) 豊田一成：「競技スポーツにおける望ましい指導者像」　日本体育学会第39回大会号　P. 175　1988

(5) 堀井美奈：「指導者の指導信条と選手の指導信条の不一致が選手の競技意欲に及ぼす影響にて」　日本体育学会第43回大会号　P. 212

(参考文献)

(1) 松田岩男他：スポーツ選手の心理的適性に関する研究　No. iv　日本体育協会スポーツ科学研究報告　1980

(2) 掘本　宏他：中国ジュニアー女子世界選手権大会代表チームと日本ユニバシヤード代表バスケットボール選手の TSMI の特徴　スポーツ心理学研究12巻1号　P. 58　1985

(3) 徳永幹雄他：現代スポーツの社会心理　遊戯社　1985

(4) 吉沢洋二他：Dual Construction Personality Model からみたバスケットボール選手の心理的適性に関する研究　スポーツ心理学研究14巻1号　P. 29　1987

(5) 松田岩男他：スポーツ科学講座6　スポーツの心理　大修館　1969

(6) 吉沢洋二他：全日本女子ホッケー選手の心理的適性について　スポーツ心理学研究10巻1号　P. 71　1983

(7) 久保玄次他：TSMI による愛媛県ジュニア選抜陸上競技選手の三ケ年の追跡　スポーツ心理学研究11巻1号　P. 63　1984